

事例 地域の親子支援「元気にここに堂」

神拝保育園（愛媛県）

〒793-0041 愛媛県西条市神拝甲 239-3

TEL 0897-55-3052

活動の概要

人が通らなくなった商店街で「こんにちは」「ありがとう」の挨拶が元気に行き交う中で、子育て中の親子が気軽にいつでも利用できる「ホッとできる場」また、子どもを通して親同士の話が弾み元気を上げたり、貰ったりする。そんな橋渡しを保育士が持てるノウハウを惜しみなく発揮し、親が、子育ての楽しさ、喜びを感じ、子どもを愛おしく思えるそんな元気で明るい子育てを推奨したいと「元気にここに堂」を旗揚げした。人が人を呼び、色々な特技を持っている親が、講師になり合って活動の輪がどんどん広まっている。

法人の概要

昭和30年6月に、予めから地域住民の切実な願望の下、地域の（神拝地区）社会福祉協議会の役員が中心となり、有志の方々の奔走努力により設立される。

昭和41年7月、法人認可を受け現在に至る。

- 経営施設数…1
- 法人全体の年間事業収入…164,000 千円
- 主な経営施設
保育園…1

実施施設の概要

- 施設名…神拝保育園
- 施設種別…保育園（定員 210 名）

■施設の運営方針

「やさしい子ども」「がんばる子ども」を望ましい子ども像とし、「心身ともにたくましく心豊かに思いやりあるこどもに育てる」を目標に掲げ、地域の子育て支援の拠点として活動する。

活動の内容

- 活動対象者…子育て中の親子

- 活動の頻度…週2回（月・木）1回あたり5時間
- 年間の利用者…約5,000名
- 活動開始年…2006年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

少子化が進む中、折角授かった子どもなのに、子育てが楽しそうに見えない人が目に付き、保育園の中では満面の笑顔の子どもたちで溢れているというのに、「なぜ？」子育ては確かにしんどいものではあるが、楽しい事、嬉しい事も一杯ある。何とか元気な子育てをして、元気で明るい街づくりをしたいとの願いが、保育士の中で湧き上がってきた。

子育ての楽しさ、喜びを地域に広げたい、しかし、園内は一杯。そこで、人通りが少なくなって来ている商店街に出向き、明るい街づくりのために協力をして欲しいと申し出た。商店街の人たちもちょうど元気な街づくりを願っているところだったと言うので、有料ですが場所を提供して頂くことになった。

■人材・賃金面等での工夫、苦慮

人材については、どの保育士でも派遣することはできるが、園の自主事業というところで、財源がなく、当初は園長の寄付でスタートした。

1回の場所代 5,000円(月額40,000円)
保育士の人件費(パート職員を充当)

日額 5,000円(月額80,000円)
毎月最低120,000円は必要である。

材料などは、いろいろな人のご厚意に甘えさせていただいたり、廃材を利用したりしている。

財源を求めて、商工会議所に出かけて商店街活性化などとタイアップした補助金申請の願いをしたり、各団体に支援を求めたりしたが、ハード面の補助なら可能性はあっても、ソフト面の補助は厳しいものであった。

■利用者の声、地域の反応

当初は、10組の親子で、週1回を想定していたが、人から人へ、また利用者がブログなどで感想を載せてくれたりするので、瞬く間に広まり、週2回となった。それでも、多い日には100名近くになることもある。週2回にしても、まだまだ広まっていく嬉しい悲鳴を上げている。自由な参加と、ゆっくりお弁当を持って来て、お友達と一緒に食べることも楽しみの一つになっている。

『転勤族で遠方から来たもの、知り合いも無く、マンションの中で、ほぼ1日中母子二人で過し、子育てのしんどさが日々増してきた頃、第2子を身ごもり苦悩していたところ、この「元気にここに堂」にめぐり合い元気を貰った。そして、第2子出産を決心しました。』などの嬉しい声も寄せられている。

『商店街の人たちも、道行く人も、いつも温かく見守っていただき、何度ものぞきにきてくれる。ここがあると元気を貰える。毎回わくわくしながら来ている。ずっと続けて欲しい。』などの声も寄せられている。

主な経費や財源の内訳(年間当たり)

主な経費	概算額
場所賃借料	480千円
人件費	960千円
材料費	200千円
雑費	120千円
合計	1,760千円

主な財源	概算額
・法人本部負担額	
・施設負担額	1,760千円
・利用者負担額(利用料)	
・補助金収入 (補助金事業名:)	
・その他の収入	
合計	1,760千円

活動の成果、地域の影響、今後の課題

一人で子育てを担い、重い重い子育てをしている親子に照準を当てた事業である。公園にいても、一組離れて遊んでいる親子にそっと寄り添い、ただ話を聞くとこから始めた。

そして、自分から出向いてみようという気持ちを静かに待った。なかなか勇気がいると見え、初めはみんなが帰った後にそっと来る親子が、一組、二組。10分~30分くらい過ごして黙って帰っていく。その繰り返しで現在に至っているが、僅かに滞在時間が長くなってきているように感じている。

こうしてどんどん元気な輪が広がってきている中で、人間関係に不安を感じているような親子に寄り添える場が、少なくなってくることを懸念している。また、この様な子育て支援を長期的に定着させる方策を確立したいと考えている。